研究室から生まれた商品

秩父地域の新たなる林業振興を目指し飲料開発

日本薬科大学

森のサイダーは森を守る活動と天然林を有効活用する取り組みから地域を活性化するためのプロジェクトから生まれた。秩父の山林には天然のキハダが多く自生。このキハダを「森の恵み」として有効活用できないか、日本薬科大学と秩父の樹液生産者組合、及び地元飲料会社とともに協議を重ねた。キハダの樹皮は古来、胃薬としても使われる独特の苦さがあるが、後味は「スッキリ」とした「爽やかな苦味」。そこで、キハダ特有の「苦味」に着目し、従来の「甘いサイダー」の固定概念を覆す、「爽やかな苦味」がきいた今までにない清涼飲料水が誕生した。

ジビエがつないだ地域との交流

吉備国際大学

吉備国際大学が淡路島に農学部を開設して10年が経った。農業が盛んな淡路島では自然獣による農作物被害の多発地域である。地域の役に立てないかと一念発起し、８年前から狩猟免許を学生たちが取得。今や農学部生の１０人に１人が狩猟部に所属するほどの名物部活になった。最近では、地域からの相談が年々増え、害獣の捕獲や防護柵の設置、ジビエ料理販売イベントなども開催。２０１９年度にはジビエ専用の食肉製造の施設が完成し、学生達が獲ったイノシシを、自分たちで解体して、精肉を販売することが可能となった。２０２１年には、地元の中華料理屋とのコラボ商品『ジビエ麻婆豆腐の素』を販売している。

「かっこ悪い」前もちリュックを「かっこ良く」

大阪芸術大学

前持ちリュックをカッコよくしたいという研究からうまれたバッグ。大阪芸術大学デザイン学科福武研究室のゼミ生の足立梨歌さんが、卒業制作で考案した体の前後に収納スペースをもつバッグ『Duegg＋』の製品化へむけて『Steller'sseacow』というブランドを研究室で立ち上げた。兵庫県養父市の鞄製造メーカーの協力の下、商品化を目的とした資金調達のため、クラウドファンディングを実施し、開始1週間で目標達成！ 2023年春に一般販売を目指す。
https://www.stellersseacow.com/

規格外人参の活用レシピ考案

四国大学

四国大学短期大学部食物栄養専攻の学生が考案した「にんじんキャラメル」をアレンジした『きゃろめるばたぁ』が商品化された。この製品は、徳島県海陽町の山上ファームで栽培されている、特別栽培洋人参「濃紅（こく）みつキャロット」の生鮮品として販売されない規格外人参の活用を目的に学生がレシピ開発した「にんじんキャラメル」を地元製菓企業が食べ方のアレンジが豊富なスプレッドに改良し、完成。キャラメルとしてそのままやアイスクリームにかけたりバターのようにトーストに塗るのもおすすめ。

頑張る人応援キャンペーン商品

大阪国際大学

20代の野菜不足とコロナ禍による心の疲弊や就活時のメンタルケアなどに着目して、学生が企画した「お守り絆創膏付き野菜ジュース」。この“お守り絆創膏”は、「履きなれない就活用の靴による靴擦れが痛い時」「就活生の『心に絆創膏を貼る』という意味で、お守りとしてお財布などに入れて常に携帯できる」という温かい気持ちを込めて企画。自分のためだけではなく家族や友人など応援したい誰かのために… そんな温かいつながりが広がることも目的で、カゴメ㈱の担当者からは健康＆心理面のフォローと横のつながりに着目していることに大絶賛された。

地元企業と共同で新収納ツール考案

東北工業大学

東北工業大学は、２０２１年、産業デザイン学科の坂手研究室の４年生が、（株）薬王堂、（株）東北イノアックと共同で、新商品を企画した。コロナ禍で変化した消費者ニーズを捉えたニューノーマルニーズ商品。片付けや掃除の時間が増えたことで、楽しく片付けができる新しい収納ツールはできないかと考えた。表面にミクロな吸盤構造を持つ特殊な機能ウレタン素材を使い、片付けたい物を何でもペタペタと貼って、飾って見せることを楽しむ収納シート「ぺったうぇい」を考案。調査、企画、販促、に至るまで、実開発と同じなので、学生にとって貴重な経験となり、企業にとっても学生の自由な発想が刺激となった。

たまごのアイディアレシピを考案

東京家政大学

「たまごのある暮らし」とは、昭和産業グループと東京家政大学の産学連携事業により誕生した“たまご料理レシピ付き卵”。栄養学を学ぶ大学生が、季節や行事に合わせて卵のアイディアレシピを考案している。２０１５年より関東圏のスーパー等で販売が開始。卵は安価で栄養豊富な食材であり、月替わりで卵のパッケージに紹介されるレシピが入れ替わるため、夕食のおかずに悩む消費者から大変喜ばれている。

地域の課題解決を考える

函館大学

函館大学ビジネス企画研究室（通称：ビ研）は、学生による研究サークルで地域社会への貢献や自身の成長を目的に様々な活動を実践している。コロナ禍で教育活動が制約される中、道南地域の高校生にむけて“目標に向かって全力で活動に取り組くむ機会”を創出することを目的として“地域課題の解決や活性化を題材”としたアイデアコンテスト【高校生アイデア王座決定戦】の開催にむけて、全力で取り組んでいる。
ビ研：公式Instagram：https://www.instagram.com/hakoubken/

大学トップの意外な〇〇

南極の支援記念の石

東京聖栄大学

（田所忠弘 理事長・学長）

１９６５年から１９８２年までの南極観測船「ふじ」（第７～第２４次隊）の海上自衛隊隊員が昭和基地への食料を始めとした物資の補給任務や南極調査隊の支援として南極を訪れた際にこれまでの支援の御礼記念として隊員により持ち帰られた石。当時自衛隊食料調達補給課で隊員食の食事向上を目指し日々仕事をしていた父が長年に渡る食料補給の御礼としてお土産品として頂いたものと聞いている。自衛隊退職後も冷凍食品を通じながら外食産業界でも「食」の仕事を継続した父が書斎に大切に保存していた南極の『石』を今は、やはり「食」の大切さを示す本石を大学としても「食」への強い『意志』を全うする表現として私も理事長兼学長室に置かせて頂いている。

学長はチェロの名手

弘前学院大学

弘前学院大学の藁科勝之学長は、専門分野である日本語学の教育・研究に日々励むとともに、音楽（チェロ）と向き合う時間を大切にしている。キリスト教大学の中心ともいえる礼拝において、奥様のピアノとアンサンブルを披露することもあり、音楽を通じた「夫婦の仲睦まじさ」を感じさせる演奏は、学生・教職員にも大好評。好きな曲は短調で、ドラマチックで泣かせる曲。ブルッフのチェロ曲も。

学長のお昼は学食

東北工業大学

東北工業大学の渡邉浩文学長のお昼は、決まって学生食堂。学長曰く、「学生時代からずっと学食ですよ。近くて早くて安くて合理的でしょ。教職員の皆さんと雑談したり、学生たちが何をどんな感じで食べているのか様子を見れたりするし」とのこと。カップラーメンで昼食を済ます学生を心配し、１００円カレーを２杯食べる学生に目を細め…
学食には学生たちの日常が反映されている。

日本創作クラシックを好む

相模女子大学

相模女子大学の田畑雅英学長は、それまで西洋音楽一辺倒だった高校生の時に、伊福部昭作曲の『交響譚詩』を偶然ラジオ放送で聴いて目が覚めるような感動を覚えて以来、戦前から１９６０年代ごろまでの日本の創作クラシック音楽に熱中。この時期の日本の純音楽作曲家は映画音楽も多く、音楽を聴くために映画を観ることもあった。西洋文化と自らのアイデンティティとの葛藤の中から生み出された当時の音楽作品は、今日でも傾聴に値すると学長は語る。